

## No.65 &gt;&gt;&gt; Contents

- 一般財団法人大日本蚕糸会から  
「助成事業のあり方検討会報告書」について  
..... 一般財団法人大日本蚕糸会 常務理事 寺野重造———— ①
- トピックス  
国産生糸の需要開拓の条件・・・碓氷製糸株式会社 代表取締役社長 高木 賢———— ③  
《東京モード学園 × 純国産宝絹》  
..... 学校法人日本教育財団 東京モード学園 教務部 埴 恵子———— ⑥  
宝絹×女子美 「初夏に奏でるハーモニー」ー純国産絹糸を使った商品発表ー  
..... 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
特任准教授 大崎綾子———— ⑧
- 海外情報  
中国蚕糸絹業団体等の変遷.....中和株式会社 代表取締役 潘 林龍———— ⑩
- 研究・技術情報  
「第25回国際養蚕委員会大会」開催報告  
.....国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）  
生物機能利用研究部門 新産業開拓研究領域 領域長 桑名芳彦———— ⑬  
第25回国際養蚕委員会大会での全国シルクビジネス協議会の出展について  
.....全国シルクビジネス協議会 PR分科会 主査  
株式会社リバープロジェクトトレーディング 代表取締役 河合 崇———— ⑮
- イベント情報———— ⑰
- 一般財団法人大日本蚕糸会から  
2019年度第4次分の純国産絹マーク使用許諾状況———— ⑳  
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧（2019-第4次）———— ㉓  
一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌———— ㉕
- 蚕糸絹関係博物館一覧———— ㉗
- 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧———— ㉙
- 統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）———— ㉛



## 「助成事業のあり方検討会報告書」について

一般財団法人大日本蚕糸会

常務理事 寺野重造

一般財団法人大日本蚕糸会（以下「蚕糸会」という。）が蚕糸・絹業提携グループに対して行っている繭代等の助成や稚蚕飼育所、製糸事業者、養蚕農家の皆さんに行っている繭・生糸の生産支援のための助成事業は令和2年度までの事業となっています。

このため令和3年度以降、国内蚕糸業振興のため蚕糸会としてどのような支援を行っていくことが適切であるかを昨年4月から有識者の皆様にご検討いただきました。

### 1 検討会設置の背景等

蚕糸会として有識者の皆様に関後の助成事業のあり方をご検討していただくこととしたのは、主に2つの理由によるものです。

1つは、平成20年に蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業（以下、「緊急対策」という。）が始まって以来、国の基金（35億円）に加えて蚕糸会自身も多額の独自資金を助成事業に投入してきました（現在の事業が終了する令和2年度末までの蚕糸会の独自資金の支出累計額は、30億円近くになると見込まれています。）。このため、過去に造成された蚕糸会の資金も大きく減少し、このまま推移すれば、早晚助成のための資金

が枯渇し、助成事業が行えなくなってしまうことが想定される状況になっていることです。

2つ目は、緊急対策が始まって以来10年以上が経過していますが、依然として我が国の蚕糸業は縮小傾向から脱しきれない状況が続いていることです。

これらの問題の解決に向けた提言を出していただくため、有識者の皆様には、国産生糸の実需者である織商や絹織物業者の方々をはじめ製糸事業者の方々、養蚕農家の方々、地方自治体等関係者の方々と意見交換を行うとともに、200社を超える絹織物業者にアンケート調査を行う等、精力的に検討を行っていただきました。

### 2 提言のポイント

検討会では昨年11月に、蚕糸業再興の方策とそれを実現して行く上で蚕糸会に期待される役割と助成事業のあり方についての提言となる報告書を取りまとめたいただきました。検討会の報告書は蚕糸会のホームページに全文を掲載しておりますので、是非ご覧いただければ幸いです。

報告書は、提言をまとめるに当たっての

---

---

論点を記載している前文と、Ⅰ 蚕糸業をめぐる近年の動向とその評価、Ⅱ 蚕糸業再興のための方策としてどこに重点を置くべきか、Ⅲ 蚕糸会の役割はどうあるべきか、の三章からなっています。

Ⅰ章では、国の蚕糸政策が生糸の需給や価格を公的に調整する仕組みから、市場評価の下で高品質の絹製品づくりを目指す経営体への支援を行う緊急対策に大きく転換されたことの評価とそれが蚕糸会の役割について与えた影響について記述されています。

Ⅱ章では、蚕糸業再興のための方策として、緊急対策の原点に戻って川上から川下までの関係者が真に連携して実需者のニーズに合わせた製品づくりを行うことの必要性について記述されています。

Ⅲ章では、蚕糸会の役割として①研究開発・技術指導事業や②蚕糸業界中央センタ

ーとしての機能を中心に蚕糸絹業や関係者への支援を行うことが蚕糸会のあるべき姿であるとの提言が行われています。

助成事業については、蚕糸会以外に必要な助成を行える機関が存在しないこと等から極力重点化、効率化を進め、蚕糸会の組織・事業の持続性の確保を踏まえ、「需要先と直につながり一体的に品質向上が図られる提携グループ」を育成することに係る助成については継続することを期待するとされています。

### 3 今後の対応

蚕糸会では、検討会の報告書を踏まえ、蚕糸会の資金事情等も勘案しながら令和3年度からの対策について検討を進めていくこととなりますが、検討に当たっては関係者の皆様の意見も聞きながら進めていきたいと考えています。

## 国産生糸の需要開拓の条件

### 碓氷製糸株式会社

代表取締役社長 高木 賢

#### 1 国産生糸に対する需要の現状

##### (1) 生糸需要の動き

まず確認しておくべきことは、遺憾ながら、生糸需要が減退の一途をたどっているということである。

数値をみてみよう。

「シルクレポート No.64 (2020・1)」の巻末部分に掲載された統計資料によれば、2010年に13,220俵であった生糸の国内引渡数量は2018年には5,793俵と大幅に減っている。国産生糸の仕向け先である国内の絹織物の生産総量も、同時期において3,611千㎡から2,113千㎡に減っている。いずれを見ても、わずか8年の間に半減という驚くべきペースである。

以前には、外国産生糸や絹糸の流入によって国産生糸の需要が食われていた時代もあったが、最近では外国産生糸や絹糸の輸入も減っており（生糸は、同時期に、12,207俵から5,018俵に。絹糸は、同時期に16,306俵から11,092俵に。）、我が国の絹需要全体の減退という憂慮すべき事態に遭遇している。（別表参照）

もう一つ確認しておくべきことは、外国産生糸は、価格が国産生糸より大幅に低く、

実際の輸入数量も圧倒的に多いので、国内生糸市場を席捲している状態が続いているということである。

##### (2) 国産生糸と外国産生糸との内外価格差

国産生糸の生産コストについてみると、生糸1kg当たり、繭1kg2,400円程度として原料繭代が1万3千円程度かかることになるが、大日本蚕糸会による繭代の助成があることにより、原料繭代は7千円程度で済んでいる。しかし、生糸の製造費が1万円程度かかるので、合計して1万7千円程度となる。

一方、中国産生糸の価格は、2020年1月の中国の嘉興生糸繭取引所の相場によると、日本円で6～7千円程度で推移している。輸入に必要な経費を考慮しても、内外価格差は、2倍以上あるのが実態である。

##### (3) 国産生糸に対する需要の実質

以上のような大きな内外価格差と中国産生糸が国内生糸市場を席捲している状態の下では、コスト価格で国産生糸を販売するのは極めて難しい。価格競争では勝ち目はなく、中国産生糸より高い価格に見合う何らかの価値がなければ、国産生糸に対する需要は見込めないことになる。今日、国

## 別表

### 生糸需要関係指標の推移

暦年	生糸国内引渡数量(俵)	生糸輸入数量(俵)	絹糸輸入数量(俵)	絹織物輸入数量(千㎡)	絹織物生産数量(千㎡)
2010	13,220	12,207	16,306	8,930	3,611
2011	10,349	9,323	17,526	8,442	3,152
2012	10,274	10,032	16,179	7,218	2,912
2013	9,919	9,332	15,844	6,662	2,940
2014	8,726	8,235	14,820	6,098	2,734
2015	7,194	6,479	14,051	5,468	2,316
2016	6,869	6,548	12,094	5,207	2,243
2017	7,557	7,560	14,560	4,897	2,195
2018	5,793	5,038	11,092	4,151	2,113

(大日本蚕糸会「シルクレポート No.64 (2020・1)」49p 及び 55p から作成)

産ということ自体が希少価値を持つ時代になっていることは確かであるが、蚕糸絹業提携システムの構築が開始されてからの約10年の経験からすると、単に国産ということだけでは需要の喚起は難しく、それにとどまらない訴求ポイントがあることが必要であることが明らかになっている。

つまり、絹織物など消費者が接する最終製品において、特別な由来の繭を使っている（例えば、皇室でも飼育されている小石丸の系統の繭やオスの蚕だけのプラチナボーイを使っている）など国産プラス $\alpha$ の独自性のアピールが必要になっているのである。そういうことでないと、絹製品製造事業者には、あえて価格の高い国産生糸を使う動機が生じないことになる。

国産生糸の需要開拓については、内外価格差という大きなハンディキャップを負っている中で行わなければならないのだということを十分肝に銘じておかなければならない。

## 2 国産生糸の需要開拓の道

### (1) 提携グループの形成

内外価格差があっても国産生糸の価値を認めてくれる絹製品製造事業者と国産生糸の製造事業者、繭生産農家等が提携し国産生糸の安定的な販路を確保することを目的として、平成20年以降、提携グループの形成が行われてきた。

しかし、最終製品製造事業者から繭生産農家までの関係者すべてを網羅した、典型的な提携グループの形成は伸び悩んでいる。撤退ないし停滞しているグループもある。

何故か。

典型的な提携グループの形成のためには、最終製品に対する安定的な需要が確保される必要があるからである。換言すれば、提携グループの中心企業に安定的販売力がないと安定的な提携グループの維持は難しいのである。実態として、最近における絹需要減退傾向と内外価格差の下では、容易には国産製品に対する安定的な需要や販売を見込み難い。そうなると、繭の購入が義務づけられることになる提携グループの結成は「在庫リスク」に直結することになってしまう。体力の強い企業でない限り、在

---

---

庫リスクを引き受けることができず、提携グループの結成に踏み切れないのである。

国産生糸の安定的な需要の確保は、国内の蚕糸関係者には切実な課題であるが、同時に容易に実現することが難しい課題でもある。悩ましいところであるが、絹需要の減退状況と在庫リスクということに思いを致すことなく、典型的な提携グループの一致呵成の結成を訴えても現実性に乏しいと言わざるを得ない。

## **(2) 関係者の緩やかな協力の下での国産生糸の需要確保**

一方、国産生糸を使って新商品開発にチャレンジする事業者、或いは毎年必ずということではではないが必要に応じて国産生糸を使う事業者は少なからず存在している。これらの事業者は、国産生糸の需要確保にとって貴重な存在である。典型的な提携グループの形成の視点からは、このような需要は、不定期で不安定な需要に見えるかもしれない。

しかし、実態としては、1件ごとの需要は小さいにしてもこれらの需要の総計は全体需要の中で大きなウエイト（過半と推計される）を占めており、今後の需要拡大の可能性もある需要である。今日、細くなっている国産生糸の需要の総量確保のためには、これら一見不定期で不安定に見える需要こそ、むしろ重視していかなければならない。また、この場合「在庫リスク」を製糸製造事業者が引き受けていることによって需要が確保されていることに留意する必要がある。

高い次元の提携関係を追求する努力は必

要であるが、観念的にそれを優先するあまり、実態の方を切り捨てると、国産生糸全体の需要はしぼむことになってしまう。

また、需要の底辺拡大の意味もあり、国産生糸を使っての新商品開発へのチャレンジは特に重視する必要がある。関係者の協力関係は緩やかであっても、国産生糸の新商品開発に取り組むグループに対して、何らかの支援していくことが重要である。

いずれにしても、大きな内外価格差の下で国産生糸の需要を確保するためには、あらゆる形の国産生糸需要を取り込む柔軟な対応が必要である。

## **(3) 特徴を持った繭・生糸の開発**

長い眼で見ればともかく、急速には内外価格差の縮小が見通し難い現在、国産生糸の需要確保のために取り組むべき課題の最大のポイントが「差別化」（訴求ポイントの明確化）にあることはあまりに明白である。

「差別化」を行うことは、絹製品製造の過程、生糸製造の過程、繭の品種など様々な局面で考えられ、各段階での関係者の取り組みが期待される場所である。特に、蚕糸関係者にとっては、言わずもがなではあるが、繭の段階での差別化であろう。群馬県の蚕糸技術センターでは、夏の暑さに強い蚕の新品種「なつこ」が開発された。また、現在、遺伝子組換えカイコが実用化の段階に達してきたが、生糸製造の観点からは、蚕の飼いやすさをベースに、切れにくく、風合いのある生糸ができる繭の開発を遺伝子組換えの明確な目的として掲げ、早急に開発に取り組むことが切望される。

## 《東京モード学園 × 純国産宝絹》

学校法人日本教育財団 東京モード学園

教務部 埜 恵子

昨年7月に純国産絹の反物を使用した、東京モード学園在校生による作品制作の提案を蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会から受けました。その成果として作品は、令和2年1月22日（水）国立代々木第一体育館で行われた卒業生作品発表会において、プロモデルによるファッションショー《東京モード学園×純国産宝絹》で華々しくランウェイを飾りました。

今回の取り組みは「お蚕様」からスタートしました。

「シルク」という素材が、高級であることは、言葉としての知識はありましたが、自然の恵みから命を頂き、丁寧に丁寧に作られる「反物」であることを学ぶことで「なぜ高級な素材」となるのかを、本当の意味でイチから学びました。

130名の学生全員、レクチャーを受けた後「反物」と特性を考えながらデザインをおこしました。幅に限りがあること、長さにも限りがあることを学んだうえでデザインをすることで、より深いデザインを学ぶことが出来たと思っています。130名の中から「10名」のデザインが選ばれ、制作に入りました。制作においても、学びの連続でした。洋服を作ることを学ぶ学生たちで

すが「シルク」を扱うのは初めてのことで…試作品を作る過程でも、カッティングや縫製など、とにかく学びの連続でした。

特に私自身学びとなったのは「残布」と言われる「捨てられる生地」が、ほとんど出なかった事です。「自分の為の高級な素材」という意識が「無駄を作ってはいけない」というものを作るうえで忘れてはならない「素材を大切にすること」を、自然と身に付けていました。また、取り組みの中で、学生たちはファッションショーで作品を発表する場が与えられました。

作ることはもちろん大切ですが、それを観て頂くことはクリエイターの醍醐味でもあります。服は人に着てもらい、その力を発揮します。学生は、大切な作品を着てもらえることで、更に達成感を味わうことが出来ました。



初めて生糸に触る！





東京モード学園×純国産宝絹展示ブース

先にも述べたように、デザインをすることは、もちろん重要なことですが、シルエットを作ることにはこだわるあまり、本来の素材の持つ特性を忘れがちになります。ですが、今回の作品制作では「恵みを頂いている」という思いが、確実に学生の中に芽生えていました。自分たちの為に反物を選び、染めて頂いた「本物のシルク」を使うことにより、学生たちがまるで「宝物」を扱うように、大切に制作する姿を見ることが出来たことは、私にとって何よりも勉強になったことです。

「デザインをすること」に重きを置き「アイデアを出すこと」はクリエイターにとって大切なことは間違いありません。

しかしながら、作るうえで出る「ゴミとになってしまう生地」のことまでは、通常の



反物をカットする

授業の中で伝えきることの出来ない部分でした。学生たちは、本物を知れば、その価値を正しく認識し、正しく扱う力を持っているのだと感激しました。高価なものであると言葉では伝えることは出来ませんが、今回のように「本物」に触れる事は難しいのが現状ですが、本物に触れることが出来れば、若いクリエイターたちは、その価値をきちんと理解し、自分の糧にしていくのだということを教えて頂きました。

本物に触れるチャンスを与えて頂いた学生たちが、今後、社会に出て行ったときに、今回の経験を思い出し、「価値ある作品作り」に尽力出来るクリエイターになるであろうと、今回関わって下さったすべての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。



ウェディングドレスの制作



ファッションショー

## 宝絹×女子美 「初夏に奏でるハーモニー」

—純国産絹糸を使った商品発表—

女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻

特任准教授 大崎綾子

2019年夏、女子美術大学工芸専攻刺繍コースでは、提携グループ「絹を未来に」との共催で卒業生の作家や在学生の制作した純国産絹製のポーチやバック、スカーフなどの小物類の展示販売をジャパンシルクセンターで行いました。

### 女子美術大学刺繍コース

明治時代、日本の刺繍は欧米の万国博覧会に美術工芸品として出品され、生糸と共に国の重要な輸出品でした。当時の女学校には刺繍科が設けられ、多くの女学生が刺繍の技術を学び、刺繍を生業とするものや、女学校の教員の職を得るなどして刺繍という技術で自立した女性を輩出していました。

本学は1900（明治33）年に設立され、今年120周年を迎える美術大学です。刺繍は大学設立当初より開設されており、現在では国内の大学で刺繍を専門コースで学べるのは、本学だけとなっています。

### 女子美 Meets Takaraginu

2015年に蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会様より純国産「宝絹」をご提供



ワークショップで日本刺繍を体験

いただき、「次世代の絹」をテーマに作品を制作しました。その制作過程は、季刊誌「七緒 Vol.44」（（株）プレジデント社刊）で特集していただき、二子玉川ライズにて展示発表を行いました。

その時に純国産の貴重な絹糸の存在を知り、初めて触れた「純国産絹」の感触に魅了された私たちは、2016年より提携グループである株式会社マルシバ様のご協力により、純国産絹を使用した刺繍製品の開発に取り組んでまいりました。日本刺繍の糸は現在消費量の減少と共に生産工場も減っており、刺繍糸の開発から取り組むことになりました。

## 純国産絹を使った作品への展開

翌 2017 年は帯地を新潟の五泉で織り、十日市町で撚糸した糸を準備しました。2018 年からは、刺繍コース 3 年次の授業課題である名古屋帯の制作に、純国産の塩瀬生地と純国産の刺繍糸を使用しています。

平行して刺繍作家を目指す卒業生たちと、純国産の絹の特性を生かした商品を、日本から世界に向けての発信を基軸に企画しました。研究の成果として、2019 年 2 月 23 日～3 月 2 日に本学美術館にて開催された、女子美術大学染織文化資源研究所成果報告展「染織文化の探求と創造 彩・綴・綾」にてそれらの作品を発表し、学内外から純国産絹について、またそれらを使用した刺繍製品について強い関心が寄せられました。

その結果を受け、7 月 16 日～23 日、有楽町のジャパンシルクセンターにおいてブラッシュアップした作品を純国産絹の製品として展示販売しました。ジャパンシルクセンターの宝絹×女子美「初夏に奏でるハーモニー」展では、従来考えられてきた国内の富裕層ばかりでなく、流行に敏感で他人との差別化を好む若者やインバウンド客をターゲットに、「日本の伝統技術を用いた優れたデザインの製品は魅力的な商

品となる」と考え、購入層のターゲットと同世代の 20~30 代前半の卒業生に、自らが欲しいと思う商品を制作してもらいました。ブローチやポーチ、バック、ネクタイなどの手に取りやすい価格帯の商品を展開しました。展示には約 300 名のお客様に来場をいただき、新しい日本刺繍の魅力に触れていただくことができました。中国語の翻訳機を使いながら接客をさせて頂くなど、制作者自らが接客を行い、顧客の反応をダイレクトに受け取る機会は、今後物づくりに携わる若者には貴重な経験となりました。また、期間中には日本刺繍のワークショップを開催し、初めて日本刺繍を体験する方々に可愛いスイカをモチーフにしたポーチを制作していただきました。

引き続きこの企画は、伊勢丹新宿店「秋の豊聚祭」で「ISETAN 呉服×女子美 2019」として、10 月 15 日～22 日に、刺繍を施した帯留め、数寄屋袋などの和装小物、帯の販売を行いました。刺繍の実演もさせて頂き、お客様と会話をしながら呉服と親和性のある刺繍の魅力のアピールすることが出来ました。

2020 年も引き続き純国産絹糸を使った作品制作を研究し、様々な場面で展示発表を行っていきたいと考えております。



帯・ブローチの展示



スイカポーチ

## 中国蚕糸絹業団体等の変遷

中和株式会社

代表取締役 潘 林龍

中国シルク協会の昨年9月統計発表によると、2018年度の全蚕糸絹業界の売上高は、806億元（約1兆2,896億円）で、中国年間家蚕繭生産量67.9万トン、生糸生産量8.2万トン（約136万俵）、絹織物生産量5.2億メートル、シルク輸出売上額29.6億ドルとなり、繭と生糸の生産量が全世界の70%以上、生糸と織物輸出が、それぞれ85%と60%以上を占めています。

1980年代初期以降の40年間で、中国蚕糸絹業の生産体制と組織体制は、どの様に変化したか見てみましょう。

1980年代以前、蚕糸絹業組織は、基本的に国営体制で、1978年からの改革開放により、徐々に民営化へ転換してきました。貿易体制も高度な中央統制から市場経済体制へ移行しました。具体的には、以下のような段階を踏んで変わってきました。

**1.** 1982年、国務院により中国シルク公司設立が決定され、王明俊氏（元中国シルク進出口総公司）が、中国シルク公司総経理に任命されました。本社を上海へ移転し、高度な統制管理機能を与え、業界の各資源を集約。農業・工業・貿易、生産供給販売、人事・財政・物資を全国一体化とするトラスト企業として発足しました。設立後、直ちに、技術と設備を海外から大規模

に導入して、産業の各チェーンを充実し、構造整備と教育研究及び蚕糸絹業の国際競争力の強化を構築することにより、次の発展への大きな前進となりました。

**2.** 1996年の国際的なシルク需要低迷を克服するため、国務院が国家蚕糸絹協調チーム設立を決定し、当時の国務院副総理李嵐清氏がチーム長に任命されました。

事務所を直ちに設置し、国家経済貿易委員会の元で、業界発展基金を創出し、生糸国家準備などの措置（日本の事業団生糸準備相当、即ち商務部より指定した入札会社が最低価格で公開して入札で一定の数量を購入する事）を実行することにより、三年間の困難離脱目標を実現することができ、次の国の財政支援システムの構築につながりました。

**3.** 1997-2000年の間には、国営体制民営化への改革を推進し、全国約200社に及ぶシルク大手企業のリストラ、企業統合、製糸設備の圧縮、破産精算などを行い、約100億元の財政支援を実施することにより、シルク全産業の民営化実現を成功させ、民営化を主にした産業への歴史的な変化を遂げました。

**4.** 1999年浙江省の嘉興と2005年広西省の南寧に、相次、生糸と繭取引所（25

年前の神戸と横浜生糸取引所相当) を開設して、生糸先物売買と蚕糸相場の約定状況を国内外へ発信しました。

5. 2006年、中国商務部が「東桑西移工程」政策を打ち出し、国家資金2,622億元(日本円約4兆3,200億円)を投入して、18省市106県及び101社のシルク大手企業が、沿海部から広西省などへの産業移転を実施し、約50万戸の農家が新たに養蚕を始め、全国約200万人の農家の増収となりました。内陸中西部の経済構造が有効的に調整され、持続的な蚕糸絹業発展が可能となりました。今も、毎年、国家蚕糸絹業発展リスク基金から1.5億元(約24億円)の補助を受けています。

6. 2008年の後半、国際金融危機が発生。政府は、更に1億元(約16億円)を投入して、生糸の買い取りと保管を実施し、生糸価格の暴落を止めましたが、生糸1トンにつき、16万元という価格は、歴史上の最安値となりました。しかし、国際金融危機からの影響は、最小限にとどめることができました。

7. 2013年10月、商務部が中国發展改革委員会、科学技術部、工業情報部、財務部、農業部、人民銀行、国家税務部など省庁と共同で、『蚕糸絹業産業の高品質健全發展を更に促進する意見書』を公表しました。

8. 2019年3月、国務院劉鶴副総理の指示により、「蚕糸絹業高品質發展行動2019-2023五カ年計画」の検討が始まり

ました。2019-2023年間の蚕糸絹業については、家蚕品種遺伝子組換え、桑品種選抜、規模化・集約化・高効率化養蚕の推進、生糸電子検定の国際基準確立、単織度生糸電子検定設備開発、全齡人工飼料育工場化養蚕、AI繭検定、自動化煮繭、製糸工程短縮、電子ジャガードレピアー、特広幅生地染色整理、リバーシブルインクジェットプリント、AI人工知能化現場管理などの運用を策定しており、研究開発については、製糸廃水ゼロ排出、セリシン、エネルギー回収環使用などの設備推進と拡大、繭生糸資源開発と食品、医療への転用などを課題とし、流通については、シルク商品ブランド加速、シルク商品ネット流通加速、文化歴史について、伝統文化歴史継承、博物館、シルク文化創意苑、シルク小鎮、刺繡、宋錦保存、シルク工業+文化+観光の多元化、一帯一路沿線国家桑蚕糸生産拡大などの目標を計画しています。

(以上の内容は、中国シルク協会2019年9月17日発表した講演により整理した)



中国商務部認定された<集約規模化養蚕基地>  
浙江省米賽集團2019年10月海寧県

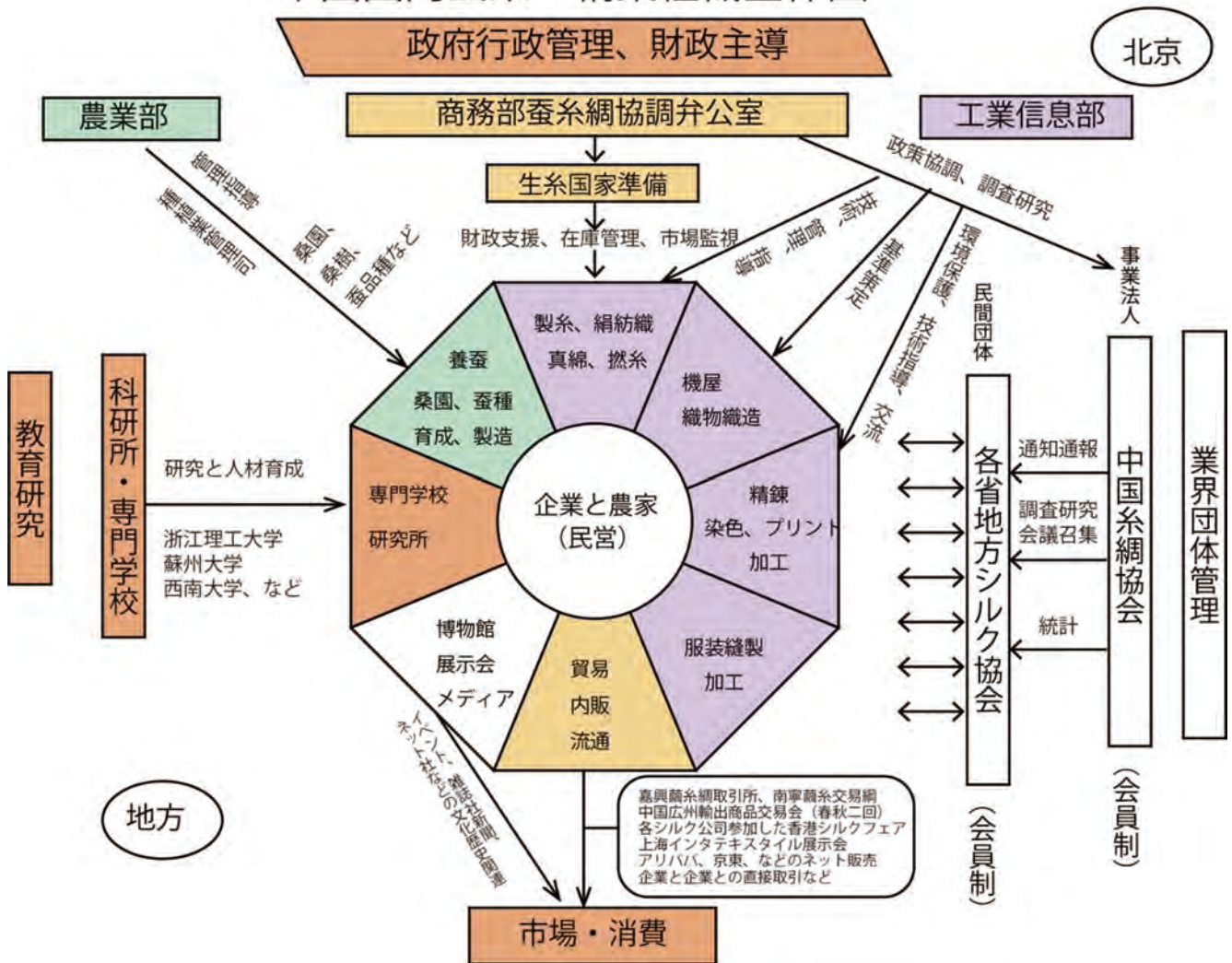


2019年10月江蘇省富安県農家からの生繭を買取り、重量を測る現場



2019年10月江蘇省富安シルク有限公司が買取した繭を乾燥する現場

### 中国国内蚕糸・絹業組織全体図



## 「第 25 回国際養蚕委員会大会」開催報告

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）  
生物機能利用研究部門 新産業開拓研究領域 領域長 桑名芳彦

### はじめに

令和元年（2019年）11月19日～21日にかけて、茨城県つくば市にある「つくば国際会議場」にて、The 25th International Congress on Sericulture and Silk Industry（第25回国際養蚕委員会大会）が開催されました。また22日は現地視察として、群馬県のカイコ関連施設を見学しました。

国際養蚕委員会は、蚕糸業に関するあらゆる活動の発展及び改善を技術的、科学的及び経済的な観点の下に奨励促進するため、1948年に設立された団体です。主として加盟国間の情報交換や、蚕種製造・飼育・繰糸等の研修、出版物の刊行、養蚕学に関する国際会議の開催等の活動を実施しています。日本は1953年に加入しています。今回の大会でウガンダが新たに加入することが決まりましたので、加盟国は21ヶ国になりました。

国際養蚕委員会大会は、国際養蚕委員会が3年ごとに開催している大会で、各国の研究者や学生が、養蚕やシルクに関する最新の研究を発表して情報交換をする貴重な機会となっています。今回、第25回目にして初めて日本で開催されることになりました。本大会では、研究者による研究成果の発表を中心に、展示や現地視察を行い、これらを通じて当該分野の先進国である日



閉会式での各分科会から取りまとめの報告。  
壇上に並ぶのは国際養蚕委員会事務局長らと  
8分科会の議長。

本の技術を国内外にPRすることができたと思っています。また本大会の参加者は21ヶ国から215名を数えました。加盟国以外からの参加者も多く、お互い情報交換の良い機会になったものと思います。

今大会のテーマは「Silk beyond the Textile」に決めました。日本語で言うと「シルクは織物を越えて」といった感じでしょうか。蚕糸・シルク産業は、従来の繊維利用に加えて、医薬品原料を始めとする様々な組換えタンパク質の生産や、シルクを加工した新素材の開発など、新しい分野に期待が集まっています。そこで本大会では、繊維利用から新技術の活用まで、蚕糸・シルク研究のすべての分野を対象とするということで、このような大会テーマを掲げました。

## 大会概要

19日の開会式では、国際養蚕委員会事務局長のOkhandiar（オカンディアール）氏、農林水産省生産局長の水田正和氏（代読）、農研機構理事の門脇光一氏の3氏による開会の挨拶の後、授賞式が行われました。これまでの顕著な研究業績に対して贈られる「Louis Pasteur Award（レイパスツール賞）」が3名に、蚕糸科学における優れた業績を上げた研究者に対して贈られる「Excellence in Sericulture Science Award（養蚕科学優秀賞）」が4名に贈られました。日本からの受賞者は、レイパスツール賞を門野敬子博士（農研機構）が、養蚕科学優秀賞を飯塚哲也博士（農研機構）と寺本英敏博士（農研機構）が、それぞれ受賞しました。日本の受賞者はいずれも農研機構の研究者であるとともに、7名の受賞者中3名を占めたことで、日本の蚕糸やシルク産業に関する研究レベルの高さを改めて示すことができたものと考えています。農研機構としては、引き続きこの分野を世界的に引っ張っていくような研究を展開していきたいと考えています。

授賞式後の基調講演では、帝京大学の関水和久先生から「Use of silkworms as an experimental animal for evaluation of food and medicine（食品や医薬品の評価のための実験動物としてのカイコの利用）」というタイトルでお話いただきました。関水先生はカイコを医薬品のスクリーニング（薬が効くか効かないかを判定すること）に用いる研究をされており、日本中の土中細菌の中からカイコを用いて新たな抗生物質を発見されています。このような研究も、カイコの新たな利用法として注目されています。

基調講演が終わってから、コーヒー休

憩をはさんで、本格的な研究発表が始まりました。8つの分科会から、2会場で3日間かけて口頭発表を行いました。また大会2日目の夕方にはポスター発表も行われました。分科会は、「Mulberry（クワ分科会）」「Bombyx mori（カイコ分科会）」「Non-mulberry silkworm（野蚕分科会）」「Bacology of the silkworm（カイコ等の基礎研究分科会）」「Post-cocoon technology（製糸・製織分科会）」「Ecology（経済学分科会）」「Sericulture in non-textile industries and new silk application（非繊維利用とシルクの新しい応用分科会）」「Silk processing, trading and marketing（シルクの加工、貿易、マーケティング分科会）」の8つで、それぞれの分科会ごとに議長が進行を仕切って口頭発表を行いました。口頭発表は合計84件にも及びました。またポスター発表も各分科会から合計37件の発表がありました。

ポスター会場の隣では、大会初日から3日目まで、展示が行われました。展示を行ったのは、農研機構生物機能利用研究部門、信州大学、九州大学、群馬県（世界遺産委員会、蚕糸技術センター、繊維工業試験場/樹徳高校）、民間企業からはあつまるホールディングス、アーダン、アート、絹工房、愛媛シルク（リバースプロジェクトトレーディング）、新菱冷熱工業、松井ニット技研、



展示の様子



遠野ブルー、更には昨年9月に設立したばかりの全国シルクビジネス協議会から繊維分科会、新機能シルク分科会及び新用途分科会がポスター及び製品の展示を行いました。インドからも Silk Mark Organization of India (インド政府)、NILIMA SILKS 社、FIBROHEAL WOUNDCARE 社が展示を行い、それぞれアピールをしていました。

また大会初日の夜は Welcome Dinner (歓迎夕食会) がつくば国際会議場で開かれ、地元の和太鼓の出し物で盛り上がりしました。大会3日目の夜は Gala Dinner (晩さん会) が同じくつくば国際会議場で開催され、歌舞伎の出し物にみんなで参加するような形で盛り上がり、参加者一同親睦を深めることが出来ました。

大会最終日(22日)は、群馬県のカイコ、シルク関連施設の現地視察を行いました。生憎の雨模様で、しかも非常に肌寒い一日でしたので、インドやアフリカからの参加者にとっては、ちょっとつらかったかもしれません。途中で体調を崩す参加者も出て、事務局にとっても大変なツアーとなりました。視察先の(株)免疫生物研究所では、前橋市に在る同社の遺伝子組換えカイコ施設を見学できました。同社では遺伝子組換えカイコを用いて化粧品の原材料などを生産しており、海外からの参加者にとっても、最先端の科学技術を取り入れた新たなカイコ利用の最前線を見学できて、非常に貴重な経験になったものと思います。熱心に同社社員に質問している参加者もありました。また日本絹の里では群馬県の養蚕の歴史に触れ、最後に視察した富岡製糸場では日本の近代化を支えた製糸工場を実際に目にすることができ、感じる部分もあったのではないかと思います。

大会の様子はここに掲載の写真ではお伝えしきれない部分がたくさんあります。国際養蚕委員会のウェブサイト (<https://www.inserco.org/en/>) に写真が掲載されておりますので、そちらも是非ご覧いただきたいと思います。

## 最後に

本大会は前述したように21ヶ国から215名もの方に参加していただきました。参加者のバックグラウンドは様々だったため、ベジタリアン用の食事を用意する等、国際会議独特の難しさに直面することも多々ありました。それでも何とか無事に開催することができました。参加していただいた方々、ご協力いただいた方々には感謝してもしきれません。

次回は2022年5月17日～20日に、ルーマニアのCluj-Napoca(クルジュ・ナポカ)にて開催される予定です。本稿をお読みいただき、ご興味をいただいた皆様は、是非参加についてご一考いただければ幸いです。ルーマニアでお会いできることを楽しみにしております。



ルイパスツール賞と養蚕科学優秀賞の受賞者たち  
(一番左は国際養蚕委員会 (ISC)  
事務局長のオカンディアル氏)

## 第 25 回国際養蚕委員会大会での 全国シルクビジネス協議会の出展について

全国シルクビジネス協議会 PR 分科会 主査  
株式会社リバープロジェクトトレーディング

代表取締役 河合 崇



国際養蚕委員会大会 2019

2019年11月19日から21日まで、茨城県にあるつくば国際会議場において、「Silk beyond the Textile (絹織物を超えて)」のテーマのもと、国際養蚕委員会、農林水産省、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構共催で第25回国際養蚕委員会大会が開催された。

本大会において、全国シルクビジネス協議会は、シルクを利用した製品の展示を実施し、シルク産業に関する伝統的な技術や製品と新たな技術に基づく製品展示に加え、非繊維用途としてシルクを活用した化粧品を展開を国内外の来場者へ紹介した。

全国シルクビジネス協議会は、国内シル

ク産業にとって、新たな市場創出と、需要にあった生産体制の構築に向け、シルク関係者の連携体制の構築を目指し、2019年9月13日に発足した。養蚕からシルクを活用した製品化まで、シルク産業の各事業者が連携できるように産学官の10事業体を正会員として構成された。養蚕や蚕糸、シルク原料加工、商品開発、販売といった個々の取り組みだけでは思うようにならず、構造的な課題によって産業化に至らなかったケースを解消し、新しい発想で地域や分野の垣根を越えたステークホルダーが一体となって、シルク産業の復興・新たな産業創出を目指している。

当協議会には、蚕糸、繊維、新機能シルク、新用途およびPRからなる5分科会があり、会員はいずれかに所属し、新しい養蚕・繊維加工技術や商品開発、用途開発に携わっている。初年度は、まず周知を図る目的でPR分科会を中心に情報発信に力を入れ、当大会へのブース展示を決めた。

国際養蚕委員会大会とは、国際養蚕委員会が3年ごとに開催する研究集会で、加盟国21カ国の研究者らが、養蚕のみならずシルクに関する最新の研究を発表して情報

交換するもので、25回目にして初の日本開催となった。当委員会は蚕糸業に関するあらゆる活動の発展などを技術的、科学的及び経済的な観点の下に奨励、促進するため、1948年に国際養蚕会議常設委員会として設立された国際機関で、主として加盟国間の情報交換、出版物の刊行、養蚕学に関する国際会議の開催等の活動を行っている。対象は、家蚕・野蚕、桑、製糸や製織、経済など多岐にわたり、近年では非繊維用途として、医薬品をはじめとする様々な組み替えタンパク質の生産や、シルクを加工した新素材の開発といった新しい分野での発表も多く見受けられるようになった。また、各国の政府や企業の関係者も参加し、産業振興や技術支援などについての情報交換も行われている。

こういった中、当協議会のブースでは、分科会ごとに製品やパネルの展示を行い、その活動内容のPRに努めた。繊維分科会からは、素材としてウォッシュャブルシルクを、製品としてウェディングドレスを展示した。ウォッシュャブルシルクは、東洋紡糸工業（東京）が開発し特許を有する技術をもとに製品化された素材で、「MAYUCA」のブランドで展開されているものである。シルクの表面に特別なタンパク質をコーティングすることで、洗濯によって収縮するというシルクの欠点をカバーするべく考案された技術で、リーフレット



展示ブース

と共に実際の製品も展示された。ウェディングドレスは、三眠蚕から得た8デニールの極細生糸を使用し、齋栄織物（福島）が開発した生地を用いて著名なブライダルファッションデザイナーの手による1着わずか600gのもので、実物が会場に展示され、多くの来場者の注目を浴びた。新用途分科会からはリバースプロジェクトレーディング（東京）がプロデュースし、すでに販売が開始されている「SILMORE（シルモア）」やスキンケアの新しいブランド「愛媛絹屋」、大手コスメセレクトショップ向けに開発中の試作品などが展示された。

全体を通じ数多くの来場者に恵まれたことで、日本のシルク産業には新たな可能性が秘められていることを十二分にアピールすることが出来、海外からの来場者とも将来につながる有益なやりとりが得られ、非常に実のある展示であった。

## ●シルク博物館 所蔵品展

### 「描かれた養蚕 —<sup>さんしよくにしきえ</sup>蚕織錦絵の世界—」

シルク博物館では、1959年（昭和34年）の開館以来、幅広い分野にわたってシルク製品とその関連資料を収集保存し、さまざまな角度からその公開に努めてきました。そうした当館のコレクションの一つに、養蚕・製糸・機織りを主題とした多色摺りの浮世絵「蚕織錦絵」があります。

本展では、所蔵する錦絵から選りすぐって展示紹介し、多彩な蚕織錦絵の世界を楽しんでいただきます。

〈会期〉 4月25日（土）～6月7日（日） 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日：毎週月曜日と5月7日（木） \* 5/4は開館

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

Tel:045-641-0841

## ●駒ヶ根シルクミュージアム 第2回企画展

### 「写真でみる駒ヶ根市の養蚕～令和を生きる、吉瀬地区 林博子さんの仕事～」

駒ヶ根市内で最後の戸となった養蚕農家の様子を当館学芸員が密着取材したものを写真でご紹介します。近年では珍しい稚蚕～中蚕期の「棚飼い」と荘蚕期の「条桑育」を行っている林博子さんの仕事と昭和中期の記録写真とあわせて展示を試みました。

〈会期〉 1月10日（金）～5月17日（日） 9:00～17:00（最終受付16:30）

休館日：水曜日・祝日の翌日 \* 4/29、5/6は開館

〈主催〉駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地

Tel: 0265-82-8381

## ●駒ヶ根シルクミュージアム 第53回企画展

### 「2020 まゆクラフト作品展」

毎年、春の特別展として開催を続け、今回で13回を迎えます。一時期応募数が危ぶまれましたが、最高賞が市長賞から県知事賞へ格上げされたこと、協賛を募って副賞（記念品）の充実を図ったなどの甲斐がありまして、以前に増した技術の繭の花や人形が多く寄せられています。今回の作品展も是非ご注目いただき、多くの皆様のご来場をお待ちしております。（展示作品数60点以上予定）

〈会期〉 4月16日（木）～5月24日（日） 9:00～17:00（最終受付16:30）

休館日：水曜日・祝日の翌日 \* 4/29、5/6は開館

〈主催〉駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉駒ヶ根シルクミュージアム 〒399/4321 長野県駒ヶ根市東伊那482番地

Tel: 0265-82-8381

## ●岡谷蚕糸博物館

### 2020 シルクフェア in おかや <この日、岡谷はシルク一色に！>

岡谷市では、毎年4月29日を“シルクの日”としてシルクフェアを開催しています。「シルク岡谷」の歴史、現在、そして未来を五感で味わってください。

〈日時〉 4月29日（水・祝） 9:00～16:00

〈主催〉 シルクフェア実行委員会（事務局：岡谷蚕糸博物館内）

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館（メイン会場） 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

岡谷絹工房・旧林家住宅・初代片倉兼太郎生家・照光寺蚕霊供養塔・諏訪倉庫  
吉田館・レイクウォーク岡谷・岡谷聖バルバナ教会（工女さんが通った教会）

\*詳細は、岡谷市HP・岡谷蚕糸博物館HPをご覧ください。

## ●岡谷蚕糸博物館 企画展

### 「運ぶ。蚕糸業を支えたモノの流れ」

繭を、生糸を、石炭を、人を運ぶ。電信・電話で情報を伝える。岡谷が日本一の製糸業地となった背景には、インフラの整備とともに様々な「運ぶ」がありました。運ぶことで見える産業の発展の姿をご覧ください。

〈会期〉 2月27日（木）～5月24日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日 \*ゴールデンウィーク中は開館、4/30は休館

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや—

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

## ●岡谷蚕糸博物館 信州の作家展 Part 2

### 型染め —中島久雄 小紋染めとともに—

信州の染織作家にスポットを当てる第2弾。伊勢型紙を使って、飯田伝統の染色を地域の文化として残している中島久雄氏。小紋染めの技法と作品をご覧ください。

〈会期〉 5月28日（木）～7月26日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや—

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

---

---

●日本絹の里 第45回企画展

「若槻せつ子コレクション 錦舞う打掛とキモノドレス」

本展では、刺繍・織り・染色・金彩など匠の手仕事が凝縮された花嫁衣裳「打掛」を展示いたします。特に、昭和のバブル期に贅をこらして作られた逸品をご紹介します。世界に誇れる日本人の美意識の高さと着物文化の魅力をご堪能いただけます。合わせて、ファッションディレクター若槻せつ子による、打掛をリメイクした「キモノドレス」をご覧ください。

〈会期〉 4月10日（金）～5月11日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日 \*5/5は開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

## 2019 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2019 年度第 4 次審査委員会を 2020 年 2 月 26 日(水)に開催しました。今回の申請は 4 者で、使用許諾されている 4 者のうち履歴の追加 4 者 5 品目、数量の追加 1 者 1 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、4 者 6 品目に対し、3 月 4 日(水)付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴・数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当：上坂典弘) 〒 604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	(履歴の追加) 後染反物(振袖) (五枚朱子)	75 反	繭生産 山形県内養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 田勇機業(株) 染色加工 自社
	(数量の追加) 後染反物(振袖) (五枚朱子)	80 反	繭生産 岩手県・青森県内養蚕農家 製糸 松岡(株) 製織 篠春織物(株) 染色加工 自社
(数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当：土井芳文) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地(胴裏絹)	360 枚	制作企画 絹小沢(株) 繭生産 JA 高崎市管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 製織 坪金工業(株) 精練加工 鈴津
(履歴の追加) 田中種(株) 代表者名：田中隆 (担当：田中隆) 〒 541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-3-15 大阪婦人子供服会館 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	ニット(手袋)	300 双	繭生産 JA うつのみや管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 撚糸 昭和撚糸工業 製編・縫製 (株) 今川
	ニット(靴下)	300 足	繭生産 JA うつのみや管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 撚糸 昭和撚糸工業 製編・縫製 タビオ(株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) (株) ヤマノホールディングス きもの事業本部 代表者名：山野義友 (担当者：山野義友) 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-30-7 ヤマノ 24ビル3F TEL：03-3378-2984 表示者登録番号 225	後染反物 (小紋・訪問着)	34反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製糸系 碓氷製糸(株) 製織 鈴忠織物(有) 染色加工 横山(株)

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。  
純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2020年度第1次：2020年5月29日(金)  
純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2020年4月24日(金)

(連絡先)

〒100-0006  
東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6階  
一般財団法人 大日本蚕糸会  
担当：岡島、廣瀬、小林  
TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511  
E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp  
廣瀬：hirose\_takato@silk.or.jp  
小林：kobaei@silk.or.jp



## 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2020年3月4日(2019-第4次)現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有) 絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袷紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯)、先染反物(御召類)、後染反物(色無地)、先染帯地(袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)
027	(有) 織道染塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウオーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、 白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、 白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、 婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおこし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 栴屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、 先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋組、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、 白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 (株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、襦紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (襦紗)、ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め)、もじり織(草木染)、もじり織)、裏地(紬八掛、駒八掛)、先染ストール(綾織草木染、もじり織草木染)
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物(ぼかし着尺)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 12 マルキ)
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	ニットストール
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 No. 65 (R2.1.1 ~ R2.3.31)

月日	活 動 内 容 等
1 / 7	新年賀詞交歓会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
1 / 20	遺伝子組み換え蚕の緑色蛍光生糸繰糸現場の視察 (群馬県)
1 / 22	純国産宝絹展 (東京都 代々木第一体育館)
1 / 24	「カイコ・シルク産業の未来」シンポジウムへの参加 (茨城県)
1 / 31	令和元年度第3回全国シルクビジネス協議会幹事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2 / 5	令和元年度福島県養蚕振興セミナーへの参加 (福島県)
2 / 13	養蚕調査農家との情報交換会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2 / 14	令和元年度第4回全国シルクビジネス協議会幹事会及び交流会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2 / 18 ~ 19	群馬県内養蚕者情報交換会への参加 (群馬県)
2 / 26	純国産絹マーク審査委員会 (令和元年度第4次)
2 / 27	令和元年度おやま地区養蚕活性化研修会への参加 (栃木県)
3 / 25	大日本蚕糸会通常理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)



# 蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1 (群馬の森公園内)	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

---

---

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502

# 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

## 【行政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会  
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター  
(一社) 日本絹人織織物工業会  
(一財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
(公財) 京都和装産業振興財団  
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会  
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://www.kinujinsen.com>  
<http://www.mawata.or.jp>  
<http://www.tanko.or.jp>  
<http://www.nishijin.or.jp>  
<http://www.tafs.or.jp>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www.kougeihin.jp>  
<http://takaraginu.com>

## 【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>  
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>  
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>  
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室 <http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>  
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>  
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>  
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>  
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>  
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>  
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>  
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)

## 【学会】

日本シルク学会  
(一社) 日本蚕糸学会  
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>  
<http://jsss.or.jp>  
<http://jswsmo.appspot.com>

## 【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
愛媛県西予市野村シルク博物館  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>  
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

---

---

## 【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム  
織成館（京都市上京区）  
高崎市染料植物園  
群馬県立歴史博物館  
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）  
はたや記念館ゆめおーれ勝山  
美馬蚕糸館

<http://komagane-silk.com/>  
<http://orinasukan.skr.jp>  
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>  
<http://grekisi.pref.gunma.jp>  
<http://silkfact.jp>  
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>  
<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

## 【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場  
群馬県 企画部 世界遺産課  
ぐんま絹遺産  
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>  
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>  
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>  
[http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk\\_index.html](http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html)

## 統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量		○		
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	38
(2) 養蚕農家数の推移	39
(3) 繭生産数量の推移	40
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	41
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	42
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	43
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	44
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	45
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	46
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	47
(11) 製糸工場の原料繭需給	48
(12) 製糸工場の操業状況	49
(13) 生糸在庫数量の内訳	50
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	51
(15) 生糸の原産国別輸入数量	52
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	53
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	54
(18) 絹織物生産数量	55
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	56

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	57
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	58
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	59
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	60

# 一資料・国内一

## (1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item  年次(暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000 (H12)	3280.0	1244.0	379.0	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2730.0	1031.0	378.0	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2360.0	880.0	372.9	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2070.0	780.0	377.0	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1850.0	683.0	369.0	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1591.0	626.0	393.0	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1345.0	505.0	375.0	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1169.0	433.0	370.0	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1021.0	382.0	374.0	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915.0	327.0	357.0	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756.0	265.0	351.0	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627.0	220.0	351.0	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571.0	202.0	354.0	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486.0	168.0	345.7	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393.0	149.0	379.1	0.4	9	34	—	2,734
2015 (27)	368.0	135.0	366.8	0.4	8	30	—	2,316
2016 (28)	349.0	130.0	372.5	0.3	8	26	—	2,243
2017 (29)	336.0	125.0	372.0	0.3	8	28	—	2,195
2018 (30)	293.0	110.0	375.4	0.3	8	46	—	2,113
2019 (R1)	259.0	92.0	355.2	0.3	8	37	—	1,931
前年比(%) 2019/2018	88.4	83.6	94.6	100.0	100.0	80.4	—	91.4

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)



(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
2018		293	254	179	262
2019		259	229	153	221
前年比(%) 2019/2018		88.4	90.2	85.5	84.4

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.

National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.

The Dainippon Silk Foundation（2009年～）.

(3) 繭生産数量の推移  
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	372	153	144	175
2018		110	41	24	46	375	161	134	176
2019		92	35	22	35	355	153	144	158
前年比(%) 2019/2018		83.6	85.4	91.7	76.1	94.6	94.7	107.2	90.2
2019年 構成比(%)		100.0	38.0	23.9	38.0				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～).

#### (4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年対比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年対比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年対比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年対比
青森県	1	—	—	2	1	50.0	1	—	—	2	1	50.0
岩手県	8	8	100.0	9	9	100.0	12	10	83.3	12	11	91.7
宮城県	8	7	87.5	7	7	100.0	11	10	90.9	12	11	91.7
山形県	5	5	100.0	3	3	100.0	5	3	60.0	6	5	83.3
福島県	29	27	93.1	33	25	75.8	34	28	82.4	39	33	84.6
茨城県	6	6	100.0	5	6	120.0	6	5	83.3	7	7	100.0
栃木県	21	20	95.2	16	14	87.5	21	20	95.2	21	21	100.0
群馬県	102	91	89.2	64	55	85.9	98	83	84.7	109	98	89.9
埼玉県	23	18	78.3	16	13	81.3	18	17	94.4	23	19	82.6
千葉県	6	4	66.7	4	1	25.0	6	4	66.7	6	4	66.7
東京都	3	3	100.0	—	—	—	4	2	50.0	4	3	75.0
山梨県	7	7	100.0	3	3	100.0	7	7	100.0	7	9	128.6
長野県	13	12	92.3	8	8	100.0	14	11	78.6	16	14	87.5
岐阜県	6	4	66.7	—	—	—	8	4	50.0	9	4	44.4
愛知県	2	1	50.0	—	—	—	1	1	100.0	2	1	50.0
兵庫県	1	1	100.0	—	—	—	—	—	—	1	1	100.0
愛媛県	8	8	100.0	6	5	83.3	9	8	88.9	10	9	90.0
熊本県	1	2	200.0	—	—	—	2	2	100.0	2	2	100.0
宮崎県	2	2	100.0	—	1	—	2	3	150.0	2	3	150.0
鹿児島県	2	3	150.0	3	2	66.7	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	254	229	90.2	179	153	85.5	262	221	84.4	293	259	88.4

資料:(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量  
Cocoon production by prefectures

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年 間		
	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年比	2018年 (H30)	2019年 (R1)	前年比
青森県	66.7	—	—	168.7	70.7	41.9	43.0	—	—	278.4	70.7	25.4
岩手県	872.2	837.7	96.0	1,144.2	1,190.9	104.1	1,472.3	1,315.2	89.3	3,488.7	3,343.8	95.8
宮城県	1,105.1	1,086.1	98.3	1,103.8	1,062.3	96.2	1,526.1	1,300.1	85.2	3,735.0	3,448.5	92.3
山形県	1,096.7	877.7	80.0	568.7	446.7	78.5	1,315.5	931.2	70.8	2,980.9	2,255.6	75.7
福島県	5,315.0	4,422.9	83.2	5,321.8	4,221.1	79.3	7,905.9	4,860.7	61.5	18,542.7	13,504.7	72.8
茨城県	1,036.4	1,004.1	96.9	693.5	719.4	103.7	1,065.5	1,037.1	97.3	2,795.4	2,760.6	98.8
栃木県	6,175.7	5,455.2	88.3	3,478.1	2,890.9	83.1	7,402.3	6,871.0	92.8	17,056.1	15,217.1	89.2
群馬県	15,788.6	13,657.0	86.5	7,714.3	7,960.0	103.2	16,619.9	12,518.6	75.3	40,122.8	34,135.6	85.1
埼玉県	2,907.8	2,558.0	88.0	1,379.0	1,227.0	89.0	2,733.0	2,014.2	73.7	7,019.8	5,799.2	82.6
千葉県	729.6	484.5	66.4	355.8	161.3	45.3	645.1	394.5	61.2	1,730.5	1,040.3	60.1
東京都	159.7	134.0	83.9	—	—	—	152.6	78.6	51.5	312.3	212.6	68.1
山梨県	1,788.3	1,620.3	90.6	461.4	394.8	85.6	1,553.5	1,104.2	71.1	3,803.2	3,119.3	82.0
長野県	1,424.4	998.2	70.1	957.7	736.9	76.9	1,418.7	1,122.0	79.1	3,800.8	2,857.1	75.2
岐阜県	419.5	438.9	104.6	—	—	—	339.5	316.4	93.2	759.0	755.3	99.5
愛知県	72.3	36.6	50.6	—	—	—	4.4	18.2	413.6	76.7	54.8	71.4
兵庫県	42.7	35.0	82.0	—	—	—	—	—	—	42.7	35.0	82.0
愛媛県	1,274.5	1,150.9	90.3	709.0	1080.5	152.4	1,134.7	994.3	87.6	3,118.2	3,225.7	103.4
熊本県	58.3	47.0	80.6	—	—	—	57.0	73.8	129.5	115.3	120.8	104.8
宮崎県	123.7	53.9	43.6	—	31.7	—	81.3	127.6	156.9	205.0	213.2	104.0
鹿児島県	48.0	72.0	150.0	31.0	41.5	133.9	44.0	57.5	130.7	123.0	171.0	139.0
全国計	40,505.2	34,970.0	86.3	24,087.0	22,235.7	92.3	45,514.3	35,135.2	77.2	110,106.5	92,340.8	83.9

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

## (6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

### Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2016年 (H28)		2017年 (H29)		2018年 (H30)		2019年 (R1)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 × 鐘 和		1,606	18.1	1,566	19.2	1,575	20.3	2,115	34.9
春 嶺 × 鐘 月		1,100	12.4	906	11.1	900	11.6	1,094	18.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号		2,800	31.5	2,635	32.3	2,496	32.2	781	12.9
ぐ ん ま 2 0 0		949	10.7	926	11.3	793	10.2	643	10.6
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号		679	7.6	700	8.6	715	9.2	383	6.3
松 岡 姫		445	5.0	275	3.4	272	3.5	171	2.8
MCS107 × セヴェンヌ白						18	0.2	155	2.6
新 小 石 丸		178	2.0	143	1.8	138	1.8	115	1.9
かいらょう × あけぼの		133	1.5	94	1.2	89	1.1	87	1.4
ぐ ん ま 細		101	1.1	48	0.6	66	0.9	80	1.3
緑 繭 2 号		39	0.4	120	1.5	106	1.4	75	1.2
白 麗		60	0.7	30	0.4	66	0.9	60	1.0
プ ラ チ ナ ボ ー イ		66	0.7	56	0.7	51	0.7	52	0.9
白 繭 細 1 号		59	0.7	79	1.0	57	0.7	45	0.7
ぐ ん ま 黄 金		59	0.7	55	0.7	56	0.7	27	0.4
小 石 丸		96	1.1	85	1.0	29	0.4	26	0.4
朝 日 × 東 海		58	0.7	59	0.7	29	0.4	26	0.4
玉 小 石		49	0.6	29	0.4	14	0.2	25	0.4
蚕 技 研 11 号		44	0.5	46	0.6	37	0.5	17	0.3
大 寶 × 黄 金		55	0.6	45	0.6	45	0.6	15	0.2
上 州 絹 星		26	0.3	12	0.1	9	0.1	14	0.2
Q L 2 6 × B L G 5								12	0.2
青 熟 × C 5 ・ C 6				27	0.3	26	0.3	10	0.2
黄 白		12	0.1	8	0.1	8	0.1	8	0.1
奄 美 黄 金		15	0.2	10	0.1	6	0.1	7	0.1
青 熟 × C 5 ・ 505						6	0.1	6	0.1
な つ こ								6	0.1
N 5 ・ N 6 × T Y 4 0		12	0.1	8	0.1	8	0.1	5	0.1
改 良 小 石 丸		82	0.9	70	0.9	77	1.0		
い ろ ど り		52	0.6	40	0.5	46	0.6		
青 熟 × 支 21 号		2	0.0			11	0.1		
秋 光 × 竜 白		26	0.3	12	0.1	3	0.0		
太 平 × 長 安		42	0.5	9	0.1	1	0.0		
世 紀 二 一		17	0.2	50	0.6				
山 東 3 眠 × C 5 ・ 507		10	0.1	14	0.2				
支 21 号 × 四 川 3 眠				5	0.1				
0k ・ 0N × n B L		10	0.1						
新 青 白		5	0.1						
合 計 Total		8,887	100.0	8,162	100.0	7,753	100.0	6,060	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

## (7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2018 - 1	25	778	0	728	1,822	1,200	19	453	312
2	24	401	0	510	1,737	798	11	342	325
3	28	496	0	600	1,661	1,080	22	241	510
4	24	0	0	145	1,540	929	15	356	436
5	34	926	0	791	1,709	1,127	9	368	394
6	29	348	0	439	1,647	941	11	357	455
7	24	348	0	387	1,632	788	13	339	426
8	23	423	0	518	1,560	706	16	355	352
9	32	184	1	300	1,475	817	46	296	375
10	33	431	0	499	1,440	936	24	408	443
11	29	346	0	496	1,319	953	15	343	413
12	34	358	0	381	1,330	819	12	291	412
2019 - 1	25	382	0	382	1,355	855	18	486	362
2	27	358	3	399	1,338	644	16	172	365
3	26	870	0	710	1,524	920	5	266	484
4	18	1	1	264	1,278	937	23	305	444
5	19	595	0	464	1,428	1,033	19	310	369
6	22	301	0	307	1,444	834	8	359	389
7	23	392	0	418	1,441	922	14	395	417
8	11	427	0	430	1,449	1,104	12	280	378
9	28	390	0	496	1,371	932	8	325	380
10	21	386	1	301	1,476	911	12	278	406
11	24	446	0	530	1,416	974	12	330	404
12	25	304	0	316	1,429	855	19	387	351
2020 - 1	20	549	0	588	1,410	1,178	15	341	275

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）  
中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～） (B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries  
（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、  
Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)  
(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (8) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	0	109	202	73	82
2013	409	0	109	105	57	138
2014	446	0	114	116	62	155
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2017	339	0	107	95	53	84
2018	339	0	106	104	65	63
2019	269	1	102	46	30	90
2018 -						
1	25	—	4	10	8	3
2	24	—	12	8	—	4
3	28	—	12	2	4	10
4	24	—	5	16	—	3
5	34	—	10	12	9	3
6	29	—	8	11	6	4
7	24	—	8	7	5	4
8	23	—	6	7	5	5
9	32	—	8	8	12	4
10	33	—	13	7	5	8
11	29	—	7	13	1	7
12	34	—	13	3	10	8
2019 -						
1	25	—	11	0	8	6
2	27	—	11	0	8	8
3	26	—	12	3	3	8
4	18	—	3	7	3	5
5	19	—	4	5	0	10
6	22	—	9	6	2	5
7	23	—	9	5	1	8
8	11	—	6	0	0	5
9	28	1	9	8	2	8
10	21	—	7	2	2	10
11	24	—	9	2	0	13
12	25	—	12	8	1	4
2020 -						
1	20	—	4	11	0	5

資料：農林水産省生産局（～2010.3）中央蚕糸協会（2010.4～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3).

Central Raw Silk Association (2010.4～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks: Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位: 千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produ- ction	輸入 Import					輸出 Export					内需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	186	45	0	141	5	11	8	117	141	25	0	0	10	15	116	45
前年比 (%) 2019/ 2018	91	100	—	88	96	98	95	87	88	97	—	—	97	97	87	100

資料: 蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考: 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"



## (10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

（単位：千俵）

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year					前年比% y/y	構成比% ratio
		2015	2016	2017	2018	2019		
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.4	2.2	1.7	1.3	1.5	113.7	1.3
	女子用外衣類 Women's upper garments	65.6	73.9	81.2	86.7	85.1	98.1	72.8
	うちブラウス Blouse of the inside	1.2	1.0	0.9	0.3	0.7	224.3	0.6
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	1.3	1.9	2.2	0.6	2.3	384.8	1.9
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	18.8	20.3	22.1	23.1	10.5	45.4	9.0
	ハンカチ Handkerchief	0.3	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	1.9	1.5	1.4	0.3	0.0	0.0	0.0
	ネクタイ類 Ties	7.8	7.9	10.5	1.4	0.0	0.0	0.0
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	17.9	23.2	11.1	3.9	3.6	94.0	3.1
その他の洋装類 Other western clothes	15.9	15.4	14.8	13.7	10.6	77.6	9.1	
洋装類計 Western clothes subtotal	131.9	147.5	145.3	131.1	113.6	86.7	97.3	
和装類計 Japanese clothes subtotal	10.3	11.5	13.9	1.2	0.9	77.2	0.8	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	8.6	10.1	12.3	0.0	0.0	—	—	
その他 Others	2.6	2.5	2.6	2.9	2.3	80.1	2.0	
合計 Total	144.7	161.5	161.8	135.2	116.8	86.4	100.0	

資料：財務省「日本貿易月報」

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note：Total may not added up due to round off.

## (11) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
2018 -	1	0	9	94
	2	2	8	88
	3	0	11	77
	4	0	8	69
	5	0	12	57
	6	18	10	65
	7	20	8	77
	8	9	8	78
	9	0	11	66
	10	36	11	91
	11	8	10	89
	12	0	11	78
2019 -	1	2	9	71
	2	0	10	61
	3	0	9	52
	4	0	7	45
	5	0	7	38
	6	18	8	48
	7	13	8	53
	8	14	4	63
	9	0	9	54
	10	22	8	68
	11	16	9	75
	12	4	9	70
2020 -	1	0	7	63

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況  
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	57
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	37	239	51
2018 -	1	7	74	37	50	16	58
	2	6	74	28	38	19	48
	3	6	74	23	31	24	48
	4	5	74	25	34	22	39
	5	6	74	43	58	21	49
	6	8	74	34	46	24	61
	7	8	74	31	42	22	59
	8	7	74	40	54	17	53
	9	7	74	37	50	22	56
	10	7	74	34	46	24	61
	11	7	74	35	47	22	61
	12	7	74	35	47	20	57
2019 -	1	7	74	36	49	20	56
	2	6	74	36	49	20	52
	3	7	74	34	46	21	56
	4	6	74	21	28	20	42
	5	6	74	19	26	21	42
	6	7	74	26	35	21	45
	7	7	74	23	31	18	46
	8	7	74	14	19	17	45
	9	7	74	32	43	21	51
	10	8	74	28	38	20	54
	11	8	74	31	42	20	54
	12	7	74	28	38	20	51
2020 -	1	7	74	32	43	19	50

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
年月 Year & Month				
暦年 Calendar Year				
2010	3,329	319	2,354	656
2011	2,456	288	1,651	517
2012	2,180	124	2,056	
2013	1,712	110	1,602	
2014	1,653	78	1,575	
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2018	1,330	230	1,100	
2019	1,429	238	1,191	
2018 - 1	1,822	156	1,666	
2	1,737	158	1,579	
3	1,661	166	1,495	
4	1,540	161	1,379	
5	1,709	174	1,535	
6	1,647	184	1,463	
7	1,632	182	1,450	
8	1,560	188	1,372	
9	1,475	199	1,276	
10	1,440	216	1,224	
11	1,319	219	1,100	
12	1,330	230	1,100	
2019 - 1	1,355	230	1,125	
2	1,338	246	1,092	
3	1,524	239	1,285	
4	1,278	236	1,042	
5	1,428	239	1,189	
6	1,444	245	1,199	
7	1,441	242	1,199	
8	1,449	238	1,211	
9	1,371	239	1,132	
10	1,476	233	1,243	
11	1,416	238	1,178	
12	1,429	238	1,191	
2020 - 1	1,410	196	1,214	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

## (14) 蚕糸関係品目別輸入状況

## Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2019/2018 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	8,235	6,479	6,546	7,560	5,038	4,852	96.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	14,820	14,051	12,094	14,560	11,092	10,920	98.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	48	33	41	39	18	22	122.2
繭 Cocoon	kg	10,200	6,800	7,000	6,400	7,000	5,000	71.4
くず繭 Waste Cocoon	kg	11,728	8,860	4,602	6,289	6,829	982	14.4
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	101,655	89,984	53,737	57,361	89,045	24,629	27.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	113,383	98,844	58,339	63,650	95,874	25,611	26.7
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	453,450	343,101	331,100	320,022	286,235	251,731	87.9
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	141,707	148,796	121,788	118,382	149,274	123,741	82.9
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	6,097,501	5,468,177	5,206,131	4,896,980	4,150,559	3,893,201	93.8

資料：財務省関税局

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	—	32	—
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	—	5	—
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	—	—	—
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	—	—
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	0	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	—
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2018	5,038 (51)	3,484 (46)	1,446 (5)	50	59	—
2019	4,852 (67)	3,620 (51)	1,228 (13)	—	3 (3)	—
2018 - 1	778 (4)	640 (4)	116	—	22	—
2	401	266	135	—	—	—
3	496 (5)	385 (5)	100	—	11	—
4	—	—	—	—	—	—
5	926 (17)	667 (15)	259 (2)	—	—	—
6	348	234	95	—	20	—
7	348 (13)	343 (13)	5	—	—	—
8	423 (6)	182 (3)	241 (3)	—	—	—
9	184 (5)	78 (5)	105	—	—	—
10	431 (1)	225 (1)	206	—	—	—
11	346	214	81	50	1	—
12	358	249	104	—	5	—
2019 - 1	382 (8)	299 (5)	80	—	3 (3)	—
2	358	236	122	—	—	—
3	870 (12)	686 (7)	183 (5)	—	—	—
4	1	1	—	—	—	—
5	595 (11)	449 (11)	146	—	—	—
6	301	177	124	—	—	—
7	392 (3)	328	64 (3)	—	—	—
8	427	270	156	—	—	—
9	390 (10)	319 (10)	71	—	—	—
10	386	316	71	—	—	—
11	446 (13)	321 (8)	125 (5)	—	—	—
12	304 (9)	217 (9)	86	—	—	—
2020 - 1	549 (1)	333	216 (1)	—	—	—

資料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks: 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2010		16,306	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2019		10,920	6,658	3,489	16	—	757	1
2018 -	1	1,200	613	526	1	—	60	—
	2	798	449	299	1	—	49	—
	3	1,080	598	370	2	0	109	—
	4	929	553	365	0	—	10	—
	5	1,127	666	321	—	—	141	—
	6	941	417	443	—	—	81	—
	7	788	459	318	—	—	12	—
	8	706	301	279	—	—	98	27
	9	817	485	266	1	—	66	—
	10	936	599	234	1	—	99	4
	11	953	540	386	1	—	25	0
	12	819	538	226	2	—	52	1
2019 -	1	855	545	251	3	—	57	—
	2	644	391	189	3	—	61	—
	3	920	569	256	7	—	89	—
	4	937	672	255	1	—	8	1
	5	1,033	535	401	—	—	96	—
	6	834	518	234	—	—	83	—
	7	922	572	327	0	—	22	—
	8	1,104	671	310	—	—	123	—
	9	932	546	355	1	—	30	—
	10	911	549	309	1	—	52	—
	11	974	569	298	1	—	106	—
	12	855	519	304	1	—	30	0
2020 -	1	1,178	715	348	1	—	114	—

資料：財務省関税局

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価  
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg  
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754
2019	3,569	6,561	1,215	7,067	6,658	6,426	757	7,703	3,489	6,782
2018 -										
1	636	7,911	116	6,975	613	7,868	60	7,593	526	7,120
2	266	7,749	135	6,760	449	7,974	49	7,531	299	7,350
3	380	7,927	100	7,033	598	8,045	109	7,625	370	7,295
4	—	—	—	—	553	8,305	10	7,806	365	7,413
5	652	8,465	257	7,266	666	8,708	141	8,010	321	7,555
6	234	8,204	95	7,869	417	8,962	81	8,645	443	7,415
7	330	8,112	5	6,983	459	8,758	12	9,540	318	8,626
8	179	8,554	238	8,060	301	8,595	98	8,678	279	8,349
9	73	8,327	105	8,160	485	8,460	66	9,131	266	8,633
10	224	7,661	206	8,882	599	7,448	99	9,738	234	8,495
11	214	7,200	81	9,098	540	7,307	25	9,676	386	7,960
12	249	7,175	104	8,790	538	7,134	52	10,020	226	7,906
2019 -										
1	294	6,522	80	7,491	545	6,702	57	8,335	251	7,645
2	236	6,765	122	7,725	391	6,501	61	8,471	189	7,392
3	679	6,819	178	7,366	569	6,643	89	8,134	256	7,288
4	1	7,050	—	—	672	6,604	8	8,398	255	7,199
5	438	6,765	146	7,286	535	6,486	96	7,818	401	6,644
6	177	6,490	124	7,031	518	6,421	83	7,759	234	6,756
7	328	6,302	61	7,196	572	6,126	22	7,791	327	6,722
8	270	6,257	156	6,958	671	6,118	123	7,550	310	6,498
9	309	6,206	71	6,395	546	6,011	30	6,896	355	6,509
10	316	6,449	71	6,487	549	6,355	52	6,969	309	6,344
11	313	6,513	120	6,565	569	6,493	106	7,252	298	6,442
12	208	6,747	86	6,637	519	6,717	30	7,235	304	6,567
2020 -										
1	333	6,793	215	6,713	715	6,907	114	7,455	348	6,629

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.



(18) 絹織物生産数量  
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000m<sup>2</sup>)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,931	1,113	574	43	496	529	243	285	290
2018 -									
1	168	98	52	4	42	41	20	22	28
2	175	100	52	3	44	46	22	24	29
3	176	89	55	3	31	51	25	26	36
4	190	104	54	4	46	51	25	26	35
5	188	101	51	4	46	48	23	25	39
6	194	102	50	4	48	54	24	30	38
7	170	88	49	4	35	47	22	25	35
8	157	84	48	4	33	43	20	23	29
9	156	83	52	4	27	46	22	24	27
10	182	101	55	4	42	51	23	27	31
11	181	101	51	4	46	50	24	26	29
12	177	100	49	4	47	51	23	29	27
2019 -									
1	155	89	46	4	39	41	19	22	26
2	171	97	52	4	42	45	22	23	29
3	162	90	53	4	34	46	22	24	26
4	173	98	53	3	42	46	23	24	29
5	176	107	50	3	55	44	20	25	24
6	167	95	50	4	41	46	21	26	26
7	164	94	49	4	42	45	21	24	25
8	136	78	41	4	33	38	17	21	19
9	147	82	42	3	37	42	18	24	23
10	160	92	47	3	42	45	21	25	22
11	163	96	44	4	48	46	21	25	21
12	157	94	48	3	43	43	19	24	20
2020 -									
1	132	75	42	2	31	37	16	21	19

資料：(一社)日本絹人織織物工業会

備考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks: Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,931	91.4	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2018 - 1	168	104.3	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2	175	102.3	25,063	99.0	2,912	108.7	36,007	95.5
3	176	94.1	23,373	99.3	3,289	104.9	40,384	95.3
4	190	101.6	25,842	91.1	3,243	102.9	41,773	98.8
5	188	103.3	20,935	91.9	3,345	105.9	37,871	86.2
6	194	94.6	27,319	96.3	2,820	91.1	35,102	81.4
7	170	93.4	25,225	96.2	3,376	104.9	32,378	92.4
8	157	96.9	19,518	100.4	2,621	98.8	29,797	96.2
9	156	92.9	25,448	96.2	2,708	89.1	29,607	75.4
10	182	93.8	22,919	91.1	3,137	99.1	39,136	101.7
11	181	91.0	25,178	105.2	3,047	99.9	32,662	78.8
12	177	88.9	24,012	93.5	2,813	88.9	36,982	86.7
2019 - 1	155	92.3	15,850	91.5	2,510	83.5	31,925	91.0
2	171	97.7	24,978	99.7	2,783	95.6	31,878	88.5
3	162	92.0	21,859	93.5	2,728	82.9	34,578	85.6
4	173	91.1	23,299	90.2	2,616	80.7	33,794	80.9
5	176	93.6	14,796	70.7	2,526	75.5	33,197	87.7
6	167	86.1	25,926	94.9	2,523	89.5	34,972	99.6
7	164	96.5	21,364	84.7	2,364	70.0	28,371	87.6
8	136	86.6	16,997	87.1	1,808	69.0	28,344	95.1
9	147	94.2	24,336	95.6	2,194	81.0	34,001	114.8
10	160	87.9	19,204	83.8	2,007	64.0	28,356	72.5
11	163	90.1	22,989	91.3	1,849	60.7	30,119	92.2
12	157	88.7	21,831	90.9	1,676	59.6	30,678	83.0
2020 - 1	132	85.2	15,165	95.7	1,259	50.2	24,411	76.5
2			21,802	87.3	1,707	61.3		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織物工業会 主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association

## 一資料・海外一

### (1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

### Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

### (3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)					生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)				
		2011	2012	2013	2014	2015	2011	2012	2013	2014	2015
山西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	2,935	64	55	65	61	81
河北	Hebei										6
遼寧	Liaoning						4,184	2,463	2,310	4,504	2,948
江蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	49,100	13,003	19,493	20,949	29,738	27,153
浙江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	35,600	5,748	6,688	14,293	15,505	16,060
安徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	17,000	5,040	8,139	8,909	9,101	8,057
江西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072	8,800		3,021	4,653	6,225	6,680
山東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	19,200	3,613	5,452	4,949	3,414	2,396
河南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984	5,100			1,972	2,160	1,169
湖北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	7,700	437	572	1,007	1,683	1,663
湖南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988	3,000					
広東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	35,600	1,183	1,548	1,726	2,312	2,724
広西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	286,500	8,312	27,834	35,425	40,645	46,496
重慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	15,000	3,811	3,402	3,653	4,730	4,632
四川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	76,000	27,742	27,268	29,065	38,096	40,203
貴州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	1,530	182	128	234	291	594
雲南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	62,400	2,108	2,777	2,814	3,433	4,379
陝西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	12,000	4,391	4,642	5,067	5,386	6,872
甘肅	Gansu	373	385	364	348	310					
寧夏	Ningxia	575	610	826	578	0					
新疆	Xinjiang	100	150	100	100	130					
合計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	637,905	79,817	113,478	137,090	167,284	172,114

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格  
Spot Price of Various Silk Goods

2019年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	123.25 ~ 133.25	1,972 ~ 2,132
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	136.25 ~ 158.25	2,180 ~ 2,532
3	玉繭(double cocoon)		121.25 ~ 136.25	1,940 ~ 2,180
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	94.25 ~ 104.25	1,508 ~ 1,668
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	388.25 ~ 400.00	6,212 ~ 6,400
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	393.25 ~ 404.50	6,292 ~ 6,472
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	386.25 ~ 428.75	6,180 ~ 6,860
8	玉糸(doupion silk)	110d	384.00 ~ 404.00	6,144 ~ 6,464
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	37.00 ~ 44.50	592 ~ 712
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.50 ~ 67.50	952 ~ 1,080
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	50.50 ~ 53.25	808 ~ 852
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 46.25	656 ~ 740

注:1元=16円

2019年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	115.50 ~ 125.50	1,848 ~ 2,008
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	128.50 ~ 150.50	2,056 ~ 2,408
3	玉繭(double cocoon)		113.50 ~ 128.50	1,816 ~ 2,056
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	89.50 ~ 99.50	1,432 ~ 1,592
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	370.25 ~ 380.25	5,924 ~ 6,084
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	375.25 ~ 385.25	6,004 ~ 6,164
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	371.75 ~ 406.75	5,948 ~ 6,508
8	玉糸(doupion silk)	110d	365.75 ~ 385.75	5,852 ~ 6,172
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	34.25 ~ 43.00	548 ~ 688
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.63 ~ 65.63	922 ~ 1,050
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	49.63 ~ 51.13	794 ~ 818
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	39.63 ~ 44.75	634 ~ 716

注:1元=16円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

## 2020年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	115.00 ~ 125.00	1,840 ~ 2,000
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	128.00 ~ 150.00	2,048 ~ 2,400
3	玉繭(double cocoon)		113.00 ~ 128.00	1,808 ~ 2,048
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	90.00 ~ 100.00	1,440 ~ 1,600
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	374.00 ~ 384.00	5,984 ~ 6,144
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	379.00 ~ 389.00	6,064 ~ 6,224
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	372.00 ~ 407.00	5,952 ~ 6,512
8	玉糸(doupion silk)	110d	366.00 ~ 386.00	5,856 ~ 6,176
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	34.00 ~ 43.00	544 ~ 688
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.50 ~ 65.50	920 ~ 1,048
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	49.50 ~ 51.00	792 ~ 816
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	39.50 ~ 44.50	632 ~ 712

注:1元=16円

## 2020年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	113.50 ~ 123.50	1,816 ~ 1,976
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	126.50 ~ 148.50	2,024 ~ 2,376
3	玉繭(double cocoon)		111.50 ~ 126.50	1,784 ~ 2,024
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	89.25 ~ 99.25	1,428 ~ 1,588
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	371.75 ~ 381.75	5,948 ~ 6,108
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	376.75 ~ 386.75	6,028 ~ 6,188
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	368.75 ~ 403.75	5,900 ~ 6,460
8	玉糸(doupion silk)	110d	362.75 ~ 382.75	5,804 ~ 6,124
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	33.50 ~ 42.25	536 ~ 676
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	56.75 ~ 64.75	908 ~ 1,036
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.75 ~ 50.25	780 ~ 804
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	38.75 ~ 43.75	620 ~ 700

注:1元=16円

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp>**

シルクレポート 2020年4月号 No.65 令和2年4月1日発行

編集 / 発行

**一般財団法人大日本蚕糸会**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず